

イヌワシ

Aquila chrysaetos (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧 I 類

国カテゴリー 絶滅危惧 I B 類

選定理由

中型の鳥獣の捕食者として、山地帯から亜高山帯までの山地生態系の頂点に位置する大型の肉食鳥で、もともと個体数が少ないうえに、人間活動により生息地が狭められつつある。

形態

全長約85cm。翼開長約2m。雄よりも雌が大きい。全体に暗褐色で後頭部は金褐色をおびている。幼鳥は成鳥よりも黒っぽく、翼と尾羽の基部に明瞭な白斑がある。嘴は黒色で基部は黄色い。足指は黄色である。

国内分布

北海道、本州、四国、九州の低山から高山までに周年生息する。本州で繁殖が確認されているほか、徳島県、大分県、熊本県でも生息ないし営巣（繁殖不成功）が確認されている。佐渡、隠岐、対馬でも記録がある。国内に約300羽が生息すると推定されている。

県内分布

白山自然保護センター（1985）によれば、医王山以南の白山周辺、大日山系などに約20つがい、40～50羽の生息を推定している。

生態

深い谷にある切り立った岸壁の岩棚に営巣するのが普通である。繁殖活動に入るのは早く、12月には巣作りが始まり、1月には交尾がみられ、1～2月に産卵する。一腹卵数は普通2個で、抱卵日数は約45日で3～4月に孵化し、孵化から70～80日後の5～6月に巣立ちする。行動圏は20～60km²といわれる。ヤマドリ、ノウサギ、ヘビ類を主食にする。

生息地の条件

豊富な餌のある自然環境で、狩りのしやすい開けた場所があること。外敵の近づけない急峻な場所で巣を造れる適当な岩場や大木があること。上昇気流が起こるなど飛行に適する風が吹く場所があること。山間部での人間活動による悪影響も受けやすく、人為的影響が少ないこと。

生存の危機

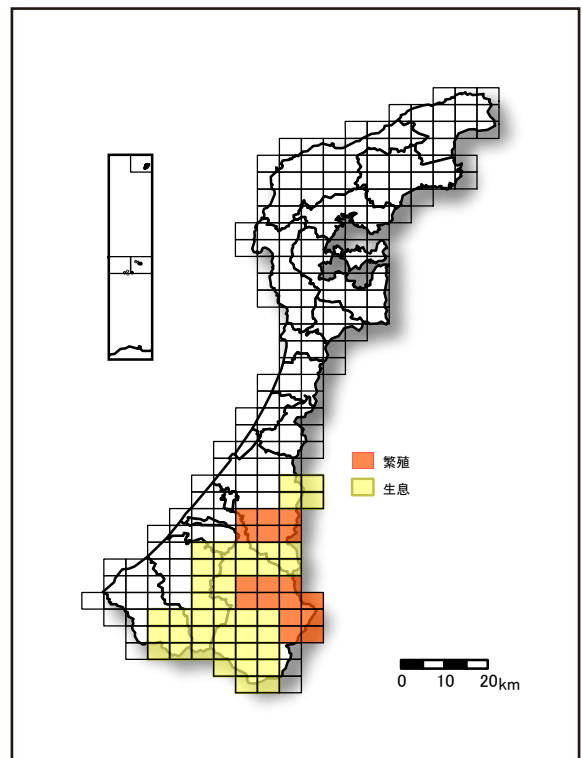
個体数が非常に少ないので、森林伐採、砂防工事など、営巣地の近くで人為的行為が行われると、営巣放棄につながりやすい。また、密猟の危機に常にさらされている。(A)

特記事項

国内希少野生動物種、国指定天然記念物、石川県鳥。

参考文献

石川県白山自然保護センター 1985. 県鳥イヌワシ保護調査報告書
石川県白山自然保護センター 1983. イヌワシの生態



県内の分布